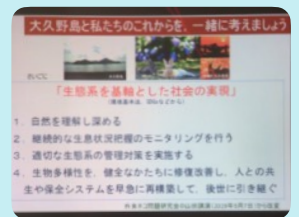


大久野島未来づくりワークショップ

第2回：2019年11月26日（火）10:30-16:00 休暇村大久野島



環境省中国四国地方環境事務所 上田所長より開会の挨拶



ウサギの第一人者、山田先生の講演



各講演者4人によるクロストーク

勉強会を実施しました

第2回目ワークショップの前に、専門家による勉強会を開催しました。

講演1：瀬戸内海国立公園と大久野島について／中国四国地方環境事務所 常富 豊

講演2：野生化したカイウサギの生態や問題／森林総合研究所 山田 文雄

講演3：近代以降の大久野島の歴史の概説／大久野島から平和と環境を考える会 山内 正之

講演4：大久野島の現状把握調査の結果報告／中国四国地方環境事務所 岡部 佳容

以上4つの講演から、新たに情報を得たり、専門家の見解を聞くことができました。講演者によるクロストークでは、互いの話題の感想や、大久野島とウサギと人の関わりやあり方を見つめ直す時間となりました。

※各講演の概要は、別紙をご覧ください。

64

参加人数

東京や大阪など遠方からの参加者も。

1

国立公園

瀬戸内海国立公園は日本で最初に指定された国立公園の一つ

920

ウサギの数

平成30年の調査でウサギの生息数は920羽以上



ビクターセンターの見学

「大久野島ビジターセンター」を見学

「良かったところ」「改善したらもっと良くなる場所」「感想」の3つの視点を持ち、グループでビジターセンターを見学したところ、「木の香りがするのが良い」「島のジオラマがあり地形を把握しやすい」「瀬戸内の自然への理解が進んだ」というものから、展示の工夫や施設の修繕などを求める声が集まりました。



課題の優先順位を話し合う

今回は7グループに分かれてワークショップを実施しました。各グループのメンバーは前回とは異なります。クロストークや前回のワークショップを振り返り、「議論の約束」を交わし、ワークがスタートしました。

第一回で出た意見をまとめた「大久野島をとりまく課題やメリット」のシート2種類を基に「まだ出てきていない課題」と「一番優先したい課題」をグループ内で話し合い、合意が得られたものを各グループのファシリテーターが発表しました。優先したい課題では「ルールづくり」が最も多く、「島のコンセプトを明確にする」「広報をする」といった合意形成の仕組みに関するものと、「ウサギへのエサやりや、エサがゴミになったり、他の動物の問題を引き起こしていること」「ウサギの個体数管理」「生態系の把握」といったウサギの個体群管理の必要性や実態の把握に関するもの、の2つのカテ

ゴリーについて、今後対応策を考えていかなければならないことが見えてきました。

またワークショップの目的が「残ったウサギのエサがゴミになる」という単一の問題を扱うのではなく、「様々な課題について島の未来像を考える」ところにあることも、参加者からの指摘により確認されました。

2つの軸（成果）

参加者が、自分とは異なる立場や視点から、大久野島に関わる問題を検証し、意見を述べ、課題に対する理解を深めるとともに、互いに影響し合う課題に優先順位をつけるワークショップを経て、2つの軸が見えてきました。

“持続可能な合意形成の場づくり”

“ウサギの個体群管理と生態系の把握”

「未来」はどこを指すのか、という各課題の解決に向けたタイムラインを決める必要も再確認されました。

次回のワークショップ開催について

第3回ワークショップは12月20日(金)に竹原市民館で開催されます。非公開となります。
また、大久野島未来づくりワークショップ4回の報告をするシンポジウムの開催が決定しました。

2020年2月11日（火・祝）午後／広島市中区